

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 2024 年度の同日程と同様、現代文の出題は 1 題であった。問題文・設問の難易度は例年どおり。四の設問中に、問題文と同一出典の別の個所からの文章が引用された。 〈古文〉 問題文の分量や設問の形式に大きな変化はない。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 岩立康男 『直観脳』 ○行数 : 115 行 <input checked="" type="checkbox"/>	AI と人間の脳の機能差と、人間の「創造性」について述べた文章。(三)の内容説明問題は、AI と人間の脳の説明を混同しないように注意する。(四)の内容説明問題は、設問中の文章だけでなく問題文にも目を配る。(五)の内容説明問題の選択肢 1 は「特定の感覚器官を選ぶ」が不適當。(七)の記述問題は、人間と「身体を持たず、忘れる力のない AI」との対比を考える。 ※ (昨年度) 評論、110 行、6 問 (7)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (鎌倉・日記) 源家長 『源家長日記』 ○行数 : 28 行 ○和歌 2 首を含む	表立って活躍する女流歌人の少なさと、若い歌人たちの置かれている状況について述べた文章。(二)の主語確認問題は標準。(三)の現代語訳は「心ある」の解釈がポイント。(四)(五)の内容説明問題は、(四)は傍線部中の「べく」がウ音便化していること、(五)では「かし」が念押しの終助詞であることに注意する。(七)の記述問題は、直前の「若びたる」「あはつけし」に着目する。 ※ (昨年度) 江戸・浮世草子、29 行、7 問 (8)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。同志社大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	7 問 (8)	7	1		3	1 > 1	1	3					
二	7 問 (10)	9	1		3 > 1		1		3	1		2	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1 問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>長文が出題された際は、主語や事実関係などの細かな点を押さえつつ、意味段落を整理しながら読解するようにしよう。また、必要な要素が何かを考えて指定字数内にまとめる記述の練習も積んでいこう。</p> <p>〈古 文〉</p> <p>問われる語句や文法は標準的なものがほとんどであるため、普段の学習における基本事項の確認をおろそかにしないこと。内容合致問題も必出のため、細部まで丁寧に把握することを意識しよう。</p>